



Before

公共施設や駅、病院やデパートなど、
北から南まで街の様々な場所でエレベーターは活躍しています。
ここでは、東芝エレベーターのユーザーさまをご紹介します。

ユーズー訪問



導入事例

vol.6

石巻グランドホテル

Ishinomaki Grand Hotel

震災から立ち直り、 「人の和を創る」ホテルへ



後藤 宗徳氏
株式会社ソーワダイレクト
代表取締役社長

宮城県石巻市にある石巻グランドホテルは、同市初の本格的な都市型ホテルとして開業し、街のステータスシンボルとして地元の人々から広く親しまれている。2011年の東日本大震災では地震と津波によって建物が被災したが、従業員の努力で同年8月には営業を再開。建物を一新するとともに、今年に入って4台のエレベーターもリニューアルした。同ホテルを経営する株式会社ソーワダイレクト代表取締役社長の後藤宗徳氏に、震災時とその後の経過、リニューアルの狙いなどについて伺った。

石巻グランドホテルは 街のステータスシンボル

JR石巻駅から徒歩で5分ほどの場所にある石巻グランドホテルは、繁華街に面した便利な都市型ホテルである。街のステータスシンボルにもなっており、結婚式やパーティの会場としても広く利用されている。同ホテルを経営する株式会社ソーワダイレクト代

表取締役社長の後藤宗徳氏は、次のように語る。

「当社は、旧北上川沿いに石巻リバーサイドホテルを開業したことに始まり、その後、都市型ホテルの石巻グランドホテルを現在地に建設しました。石巻リバーサイドホテルは老朽化により取り壊しましたが、石巻グランドホテルの斜め向かいには、ビジネスホテルの石巻サンプラザホテルもあり

地震と津波がホテルに襲来

ソーワダイレクトという社は「創和」の意味で、「人の和

1973年に設立された同社は、現在、ホテル2軒のほか、ゲストハウス「アンジュガーデン迎賓館」を運営する。後藤氏は石巻観光協会の会長も兼務している。

DATA



住所：〒986-0827 宮城県石巻市千石町2-10

TEL：0225-93-8111

概要：1983年10月、石巻初の本格的な都市型ホテルとして開業し、1991年3月に増築開業。全135室。300人まで着席できる大宴会場や小宴会場もあり、結婚式やパーティの会場としても広く利用されている。近くには漫画家・石ノ森章太郎氏の記念館「石ノ森萬画館」もある。



Before



After

かご室天井

LEDライトを採用し、直接照明から間接照明にすることで、あたたかみのあるかご室を演出した。



After

かご室操作盤

かご室の側面壁には、手すりと副操作盤を新しく設置。高齢者や車いすの方でもエレベーターを安心して利用できるようにした。



After

エレベーター乗り場(1階)

フロント・ロビーの床面に合わせた色を選択。ホテルを訪れた顧客が寛ぎと安らぎを感じられる空間をつくった。

を創ることが仕事」という後藤氏の経営理念に由来する。この「人の和」が危機に瀕したのが2011年3月に起きた東日本大震災である。

地震発生時、石巻グランドホテルの事務所にいた後藤氏は、大きな揺れが収まると、早速、お客さまや従業員の安全と建物の被災状況を確認した。幸いチェックアウト後で、宿泊客は客室におらず、けが人もいなかった。しかし、給水管の破断で館内に漏水が発生し、ロビーの壁や柱の大理石も崩落していた。後藤氏は300人を収容する大宴会場を見た時、思わず息を呑んだという。

「シャンデリアが粉々に壊れ、絨毯の上に破片が突き刺さっていました。お客さまや従業員がいたらと思うとゾッとしました」

ホッと一息つく間もなく、今度は防災無線から大津波警報が発令された。旧北上川はグランドホテルと直線距離で300m弱しか離れていないうえ、河口部から約2kmに渡って堤防がなかった。海側に高い山が2つあり、津波は川をさかのぼって街に流れ込むと後藤氏は予測。実際、川の方面からヒタヒタと黒い水が押し寄せてきたという。

「水に勢いはないのですが、ジワジワとやってくる。来るなよ、来るなよと念じながら外を見ていましたが、ついに玄関から泥水が入ってきました」

1階は50〜60cmほど水に浸かり、泥だらけになった。この日、津波は4回ほど押し寄せ、従業員がモップで泥をかきだすたびに台無しにされた。そのうち、被災した人々がホテルに避難してきた。避難者は、初日70人、2日目150人で、3日目には300人に達した。後藤氏は避難者をすべて受け入れ、ホテルはこの日から1カ月間、避難所になった。

被災者のケアをしながら事業再建に奔走

同社は地震、津波で損害を受けただけではない。ホテルを運営できないため、その日か

Before



ら収入がゼロになった。後藤氏は、当時約100人いた従業員に3月分の給与を支払い、泣く泣くその9割を解雇した。しかし、解雇した従業員のうち、20〜30人は毎日ボランティアでホテルに通ったという。

「事業を再開し、軌道に乗せたら、全員を再雇用するつもりでした。しかし、将来を期待していた従業員は先に他社に移り、その間頑張ってくれたのは、私が叱ってきた従業員でした。私の人を見る目は節穴だったわけで、この震災は神様が人を見る目を養えと教えてくれたのだと思います」

後藤氏や常務取締役の小野寺夢津子氏は被災者のケアをしながら事業再建に奔走。改修資金の融資先も見つかり、再建への道筋が立った。

「震災後の一カ月間が先も見えず一番苦しかったですね。会社を生まれ変わらせるのは初めての経験で、苦しいですが、やりがいもありました」

ホテルのリニューアルオープンは、石巻の一大イベント「川開き祭り」が始まる2011年8月1日に設定された。これを機に、被災しボロボロになったホテルを復旧すべく、設備の入れ替え、壁や床などの貼り直しが行われた。厳しい

スケジュールだったが、従業員の努力で何とか期日に間に合わせる事ができた。現在は、かつての6割ほどの従業員を再雇用し、稼働率も震災前の水準に戻っている。

エレベーターも一新 癒しと快適な空間を

ホテルの改修で最後に残ったのはエレベーターだった。震災後も問題なく稼働していたが、一番古いエレベーターで導入後30年ほど経過していた。後藤氏は、2013年9月に4台のエレベーターのリニューアルを決断。今年1月から段階的にリニューアル工事が始まり、2月に完了した。その担当として意匠、仕様などを検討したのが、日頃からロビーに花を飾るなど、癒しと快適さのために気配りを怠らない小野寺氏である。

「震災後でもあり、明るさのなかに落ち着きのある意匠を求めました。車いすや高齢者の皆さんにも便利のように押しボタンを低い位置に設置し、安全性を高めるためのセンサーもドアに設置しました」

エレベーターのドアは金色で華やかだが落ち着いた色調で、かご室内は木目調の茶系

統色で目に優しい。後藤氏もリニューアルしてよかったと満足している。

「想像以上にいいですね。動きはスムーズだし、揺れもほとんどない。移動スピードは以前と変わりませんが、体感的に速くなりましたし、地震発生時は自動着床・復旧するので安心です。東芝エレベーターさんとは創業以来のお付き合いで、他社への乗り換えは考えたことはありません。メンテナンスをしっかりやってくれるし、要望には誠実に対応してくれるからです」

会社を再建し、次の仕事は地域の復興だ。「あと5年で石巻を元気にしたい」と語る後藤氏に休む間はない。



1階ロビー

ホテルの顔となるロビーには、小野寺氏の発案で、薬師寺の大谷徹英執事による書と季節を感じさせるオブジェが飾られている。



ロビーに飾られたオブジェ

12月には華やかなクリスマスツリー、3月には春の香りを感じさせる桃の花と菜の花でロビーは彩られた。



ウェディング会場につながる
エレベーターの乗り場(1階)

「お客さまをあたたかくお迎えしたい」という思いが伝わるよう、エレベーターのドアの色に妥協はない。



小野寺 夢津子氏
株式会社ソーワダイレクト
常務取締役

「石巻2.0」で 地元主体の新しい街づくり

西田 司氏 にした・あさむ

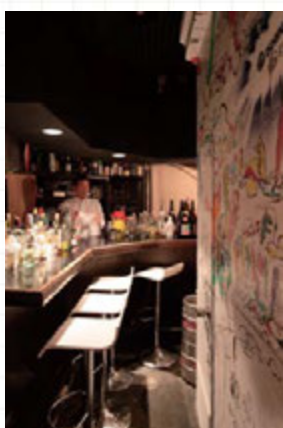
建築家／東京大学非常勤講師／
株式会社オンデザインパートナーズ主宰

石巻の中心市街地は以前から空洞化が進み、シャッターが多くなっていた。そこに津波が襲いかかり、商店街にはさらに空き地、空き店舗が増えてしまった。商店街の若手有志たちは、壊れた建物を復旧させるだけでは復興につながらないと考え、自分たちが中心となって新しい街づくりに乗り出した。それが「石巻2.0」で、全部で15のプロジェクトを展開し、これまでに人々の集う拠点を7カ所設けてきた。

建築家の西田司氏は、街の人々の熱い思いに感激し、石巻2.0で、東京の建築家、クリエイター、大学教授などを石巻と結びつけるファシリテーターとして活動している。石巻2.0の活動により、石巻は元気を取り戻しつつあり、西田氏はさらに「石巻で新しいパブリックの概念が生まれつつある」と感じている。

「行政などから与えられるものではなく、個人の意識をベースにして新しい街づくり、共同体づくりが進んでいます。結果として建築のあり方も変わってくるのではないでしょうか」

西田氏は、石巻グランドホテルの後藤社長のように、自ら被災しながらも心を開き、街の人々を助け、外部の人と連携しながら復旧させていく市民の姿勢に感動したという。「この大震災によって、かつて日本人が持っていた『共助精神』がよみがえってきました」と語る西田氏。これこそ日本が世界に誇るべき宝だろう。



石巻2.0で設けられた拠点のひとつ
「復興バー」

写真提供: ISHINOMAKI 2.0



watanabe

かご室内とドアの意匠に
時間をかける

今回、リニューアル営業を担当し、小野寺氏と仕様、意匠を詰めていったのは、東北支社の渡邊恵一である。渡邊はその過程を次のように語る。

「小野寺常務との打ち合わせには約半年の時間をかけました。常務は特に、かご室とドアの意匠にこだわりをお持ちだったので、納得なさるまで、パネルの色見本などをいくつもご用意しました」

小野寺氏は癒しの空間をつくるために、エレベーターにも統一性を求められたのだろう。最終的にかご室内は木目調の茶色になった

が、木目だけでもデザイン見本を10種類ほど用意したという。石巻グランドホテルでは、宿泊客だけでなく、結婚式やパーティーの参加者なども行き来するため、工事は細心の注意を払って進められた。工事は無事完了し、渡邊は、引き渡しの際に後藤氏と小野寺氏から「ありがとう」と笑顔で感謝されたことがうれしかったと語る。

渡邊はもともと保守担当だったが、先輩営業の姿に惚れ込み、望んで営業に転じた。今度は渡邊が後輩を引っ張っていく番だ。

営業担当



保守担当

渡邊 恵一
東芝エレベータ
東北支社 営業部
リニューアル営業グループ

佐藤 広紀
東芝エレベータ
東北支社 仙台支店
石巻営業所
シニアフィールドエンジニア



メーカーの立場から

石巻から、仙台から、 お客さまの要望とこだわりに応えます

sato

被災して一時撤退し、
石巻営業所として再開

後藤氏が信頼を寄せていた保守業務の担当者は、2006年から石巻地区を任されている石巻営業所の佐藤広紀である。佐藤は「石巻グランドホテルさんは街のシンボルであり、市民の思い入れも強い。軽微な地震が発生した場合でも、必ずエレベーターの状況を確認するようにしています」と語る。石巻にはもともと東芝エレベータのサービステーションがあった。しかし、東日本大震災でその建物が被災し、撤退を余儀なくされた。佐藤は仙台の実家に避難し、仙台支店から石巻に通って保守業

務を継続するが、当初は片道3時間もかかった。その後、移動時間は片道1〜2時間に減ったものの、余震は収まらず、復旧作業に遅れが生じる。「早く石巻に戻ってほしい」という顧客からの声に後押しされ、昨年10月、佐藤を含む3人体制の営業所を開設して再出発を果たした。

後藤氏に「戻ってきたか!」といわれて喜びを感じた佐藤は、「再開した石巻グランドホテルさんの姿を見るのはうれしいし、私もこの街に貢献したいと思います」と決意を新たにしている。